



地域学校協働 Letter

なぜ今「地域学校協働活動」が必要なのか？

核家族化や少子化の進行により、子どもたちが家庭内で多様な世代と触れ合ったり様々な体験をする機会が減少しています。これに加え、地域社会とのつながりが希薄化し、地域全体で子どもを見守る意識が薄れ、時には近隣トラブルも生じるなど、子どもが安心して過ごせる環境が狭まっています。こうした背景から、従来の学校任せではなく、地域全体で子どもを育てるという考え方に基づく地域学校協働活動が、現代社会の課題を乗り越える重要な手段として求められています。

総和南中学校 合同避難訓練（11月18日）

総和南中学校で実施された、地震と火災を想定した地域連携による複合災害対応訓練では、中学校関係者に加え消防署、消防団、警察署、こばと保育園が協力し、生徒たちは避難行動の実践と効果的な避難の流れを学びました。訓練後の止血法やAEDの使用体験活動を通じて、災害時の具体的な救護活動の知識を大きく深めることができました。

この避難訓練は学校運営協議会が主体となって計画され、有事の際の訓練だけではなく、生徒と地域がお互いの存在を知り、今後の地域学校協働活動につなげていく素晴らしい取組です。「地域全体で子どもを育てる」という考え方に基づく活動として参考にしていただければと思います。



消防団員が誘導することにより、本格的な訓練になるとともに、お互いの存在を知る機会となりました。



年長さんも訓練に参加。中学生が避難誘導し、自分たち以外の避難について考え、防災についての視野をひろげることができました。



AED研修

AEDの使い方や必要性について講和を聞き、実際の状況を想定しながら、人形を使って体験することができました。



止血法研修

怪我の応急処置だけではなく、人が倒れている時に運ぶ方法を学ぶなど、生活に密着した知識を学ぶことができました。



参加関係者の皆さん



消防団による放水



警察関係備品展示